



《ジェネラリスト BOOKS》

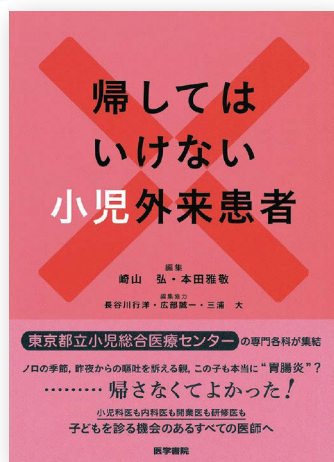
保護者が納得！

小児科外来 匠の伝え方

崎山 弘、長谷川行洋＝編

本体 3,800 円＋税／A5 判・228 頁／医学書院／2017

「抗菌薬をください！」「頭をぶつけたから CT 撮って！」「予防接種って本当に必要？」「熱が下がれば登校できる？」「なかなか身長が伸びません」などなど。小児科外来では、保護者から多様な疑問や訴えが寄せられます。気持ちのよい保護者とのやりとりに難渋する前に、ベテラン小児科医の外来をこっすりのぞいてみてください。保護者が納得する説明の仕方、教えます！ p.1678 に書評あり。



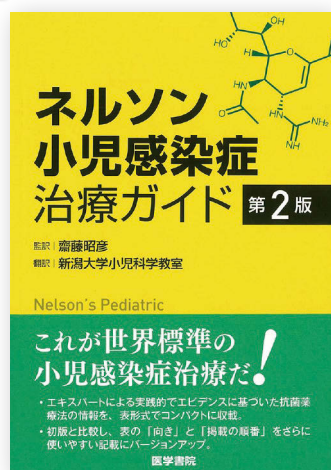
帰してはいけない小児外来患者

崎山 弘、本田雅敬＝編

長谷川行洋、広部誠一、三浦 大＝編集協力

本体 3,600 円＋税／A5 判・224 頁／医学書院／2015

外来受診する子ども（～16歳）のうち、帰してはいけない患者は？ 発熱、腹痛、食欲不振、嘔吐……。よくある症状のなかに潜む、稀だが重篤な疾患を見逃さないためにはどうするのか、いかにしてミスを防ぐかに迫る。第2章では、東京都立小児総合医療センターの専門各科が、臨場感溢れる45症例を提示。初期診断から確定診断に至るまでのプロセスと思考過程を追体験することで、実践的な対応を学ぶことができる。



ネルソン小児感染症治療ガイド

第2版

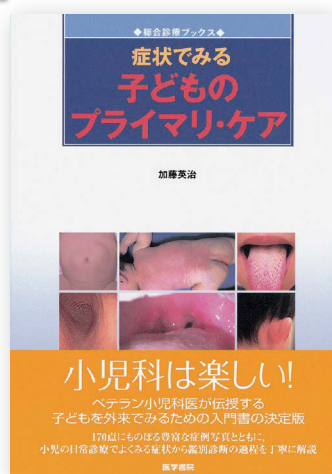
齋藤昭彦＝監訳

新潟大学小児科学教室＝訳

本体 3,600 円＋税／B6 変判・312 頁／医学書院／2017

これが世界標準の小児感染症治療だ！ 抗菌薬療法のエキスパートによる実践的でエビデンスに基づいた情報を、表形式でコンパクトにまとめたマニュアル。これを読めば、信頼できる最新の推奨療法に速やかにたどり着き、多くの抗菌薬のなかからベストな選択ができる！ 初版と比較し、表の「向き」と「掲載の順番」をユーザーにとってさらに使いやすい記載方式にバージョンアップ。待望の第2版。

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.1739) に
ご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



《総合診療ボックス》

症状でみる子どものプライマリ・ケア

加藤英治＝著

本体 4,000 円＋税／A5 判・360 頁／医学書院／2010

初期研修医・若手小児科医・家庭医など子どもに関わるすべての医師に向け、臨床で活躍するベテラン小児科医が、子どもの診断・治療のポイントを伝授。豊富な症例写真 (170 点) と、あくまで臨床でよくみる症状に絞った解説が特徴。講義調の語り口で、コメディカルや医学生・看護学生はもちろん、保護者の方にも理解しやすいよう工夫されている。小児診療は楽しい！を実感できる。



《総合診療ボックス》

見逃してはならないこどもの病気 20

山中龍宏、原 朋邦＝編

本体 3,700 円＋税／A5 判・236 頁／医学書院／2000

内科・小児科医に向けた「子どもの診かた」。同シリーズの『こどもを上手にみるためのルール 20』(1999) が総論的に診療の基本原則をあげたのに対し、本書では具体的に一般臨床医としてこれだけは見逃さないでほしい状態・疾患を 20 あげ、その診かたのポイントを示す。日々の診療で包括的な診療が行えるようになるためのアドバイスが豊富に盛り込まれている。



《総合診療ボックス》

外来小児科初診の心得 21 か条

五十嵐正紘＝監修

絹巻 宏、熊谷直樹＝編

本体 4,000 円＋税／A5 判・244 頁／医学書院／2003

同シリーズの『こどもを上手にみるためのルール 20』(1999) の第 2 弾。本書では、特に初診時の対応にポイントを置いた。内科・小児科医が日常診療で出会うことの多い疾患を中心に解説。予防接種や乳幼児健診も含め、コメディカルにも有用なプライマリ・ケアのテキストである。